



三島池越しの伊吹山／米原市

**県内景気**

現在の景気 → 生産活動 ↓ 個人消費 ↓ 民間設備投資 ↓ 住宅投資 ↓ 公共投資 ↓ 雇用情勢 ↓ 3か月後の景気 →

凡例: ☀️ 晴れ, ☁️ 晴れ一時曇り, ☁️ 曇り, ☁️ 曇り一時雨, 🌧️ 雨

前月比: ↑ 上昇・好転, → 横ばい, ↓ 下降・悪化

## 回復に向けた動きが続いているが、 中国経済の動向が懸念材料

### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、金属製品や食料品などは低下したものの、輸送機械や化学、プラスチック製品などが上昇したため、原指数、季節調整済指数ともに2か月ぶりのプラスとなり、この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値も2か月ぶりに前月を上回り、再び上向いている。

需要面では、百貨店・スーパー販売額については、衣料品は伸び悩んだが、食料品をはじめほとんどの品目で前年を上回り、3か月連続で全店ベース、既存店ベースともにプラスとなり、全体に堅調に推移している。また、乗用車の新車登録台数は2か月連続のプラスとなり、軽乗用車も軽自動車税増税の影響などが緩和し、9か月ぶりの微増となった。新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりのマイナスとなったものの、貸家が3か月ぶりの大幅プラス、分譲住宅も2か月ぶりのプラスとなったため、全体では3か月ぶりの大幅プラス。公共工事の請負件数は8か月連続で前年を大きく下回っているが、金額は2か月連続の大幅プラスとなった。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積はサービス業用が前月に続きプラスとなったものの、鉱工業用と商業用が低水準かつ大幅のマイナスとなったため、全体では3か月ぶりの大幅マイナスとなった。このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ大幅上昇

し、有効求人倍率は9か月連続の1倍超となっている。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は弱含みではあるが、一部の業種で好調なものもみられ、全体的に堅調に推移している。需要面では民間設備投資で一服感がみられるが、個人消費と住宅投資、公共投資は前向きな動きがみられ、堅調に推移している。したがって県内景気の現状は、一部で弱含みの動きがみられるものの、全体に回復に向けた動きが続いていると考えられる。

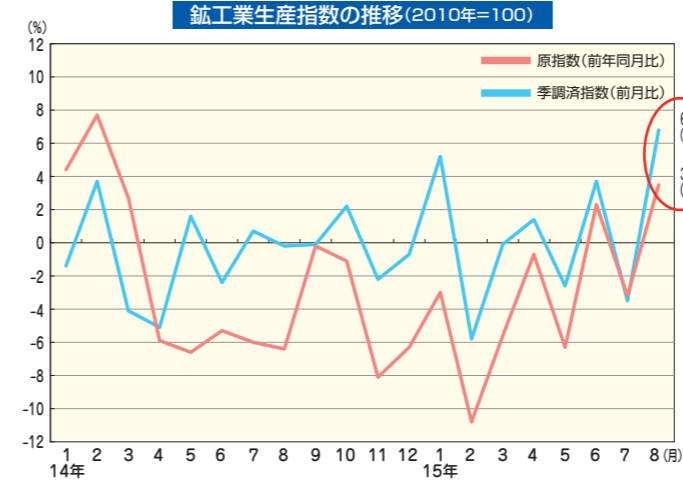
**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、国内景気の緩やかな回復を受けて徐々に上昇回復基調に向かうものと思われるが、中国経済の減速が影響し、一部では生産調整が長引き、減産の可能性も懸念される。また、需要面では、個人消費については円安等による物価上昇などの影響はあるが、家計収入の増加、原油安による消費マインドの良化などから、全体に底堅く推移するものと考えられ、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連では一部で慎重さが残るものの、前向きの動きがみられ、堅調に推移するものと思われる。

したがって今後の県内景気は、全体に底堅く推移し、回復に向けた状態が続くものと考えられるが、中国経済の動向が懸念材料として挙げられる。

### 「鉱工業生産指数」は 両指数とも2か月ぶりのプラス

2015年8月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は94.3、前年同月比+3.5%で2か月ぶりのプラス、「季節調整済指数」も102.2、前月比+6.8%で、これも再びプラスとなった。この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値(7月)は99.0、前月比+2.2%と2か月ぶりのプラスとなった。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「金属製品」「窯業・土石製品」などの水準は引き続き低いが、「化学」や「パルプ・紙・紙加工品」「その他」などは高水準が続いている。前月と比べると、「金属製品」や「食料品」などはマイナスとなったが、「輸送機械」や「化学」「プラスチック製品」などは大幅のプラスとなっている。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は4か月ぶりのプラスで(原指数93.3、前年同月比+1.7%)、在庫は前月に続き前年を下回った(同112.8、同-5.2%)。「在庫循環図」をみると、在庫調整直面から回復局面に移行した。今後の動向が注目される。

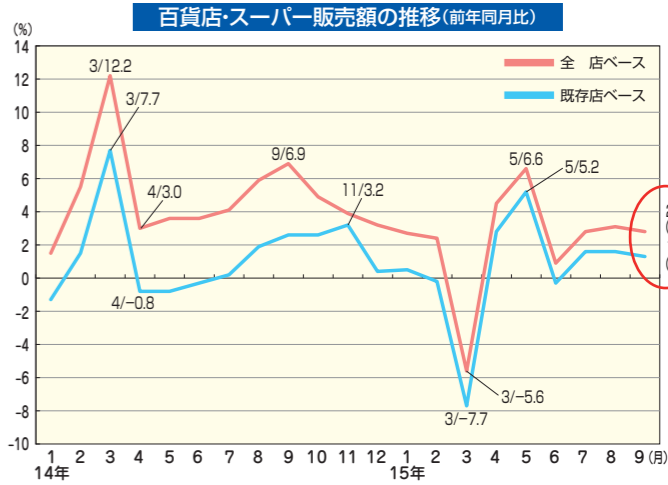


### 「百貨店・スーパー販売額」は 3か月連続で両ベースともプラス

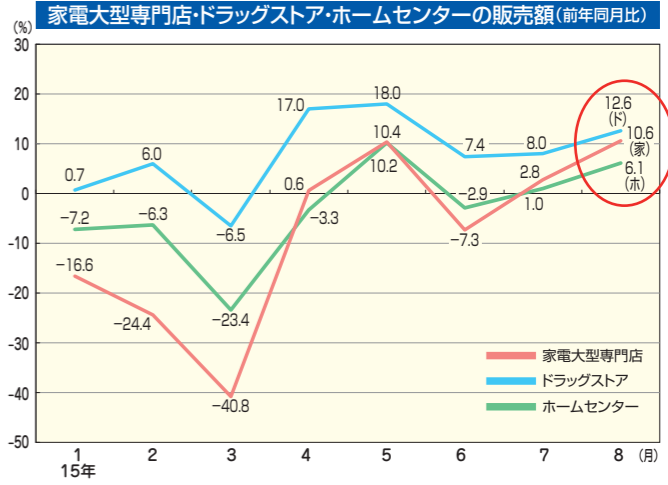
9月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.7で、前年同月比+0.8%、前月比-0.2%となり、前年比では29か月連続のプラスとなっているが、前月比では8か月ぶりのマイナス。これは、洋服やシャツ・セーター類、教養娯楽用耐久財などで大きく上昇したものの、ガス代や室内装備品、自動車等関係費などで低下したためとみられる。「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は10か月連続のプラスとなり(前年同月比+8.6%)、一方、「家計消費支出(同)」は2か月ぶりに再び前年を大きく下回った(同-18.4%)。なお、「毎月勤労統計調査」における8月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は88.0、同+3.3%で、前月に続きプラスとなった。

このような所得・消費環境のなか、9月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は

21,502百万円、前年比+2.8%で、6か月連続のプラスとなり、堅調に推移している。品目別にみると、衣料品が再びマイナスとなったものの(同-1.4%)、ウエイトの高い「食料品」は28か月連続で増加していることに加え(同+3.9%)、家電機器が3か月連続で大幅に増加し(同+19.3%)、家庭用品は4か月ぶり(同+2.9%)、身の回り品も2か月ぶり(同+2.9%)のプラスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も衣料品(同-1.3%)は伸び悩んだが、食料品(同+2.1%)をはじめ、家電機器(同+24.0%)、家庭用品(同+4.0%)など、ほとんどの品目でプラスとなり、全体では3か月連続で前年を上回った(同+1.3%)。



また、7月より公表された「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、8月の「家電大型専門店」(37店舗)は3,829百万円、前年同月比+10.6%で、前月に続きプラス、「ドラッグストア」(159店舗)は4,978百万円、同+12.6%で、5か月連続の大幅プラス、「ホームセンター」(62店舗)は3,409百万円、同+6.1%で、2か月連続のプラスとなっている。



9月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」は前月に続きマイナスとなったものの(1,799台、前年同月比-3.3%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」がプラスとなったため(1,555台、同+6.3%)、2車種合計では2か月連続のプラスとなっている(3,354台、同+0.9%)。また、「軽乗用車」は9か月ぶりの微増となった(2,348台、同+0.1%)。これは、軽自動車税増税の影響が和らいできたためとみられる。